

さいたま市長定例記者会見

令和4年8月2日（火曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社、読売新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 読売新聞 8月の幹事社を務めます読売新聞です。
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
8月に入り、連日猛暑が続いています。特に本日は、埼玉県各地で気温が40度前後になるなど、命に関わる危険な暑さになっています。市民の皆様には、どうか熱中症を防ぐ行動を取っていただきますようお願いいたします。

さて、夏休みに入って、帰省や旅行でお出かけになる方が多くなり、大宮駅も多くの方が御利用になっていることと思います。その大宮駅がまた1つ便利になります。

このたびJR東日本の土地をお借りして、駅の西口に公衆トイレを設置することができました。場所は、ONライナー発着所があったところで、来週8月10日の午後からお使いいただける予定です。

設置に当たって御協力をいただきましたJR東日本、また御支援をいただきました皆様に、この場をお借りして御礼を申し上げます。多くの皆様のお力で設置ができた公衆トイレですので、御利用になる皆様には大切にお使いいただければと思います。

それでは、議題に入ります。

市長発表：議題1「新型コロナウイルス感染状況とワクチン接種状況について」

まず、議題1「新型コロナウイルスの感染状況とワクチン接種状況について」説明します。

まず、本市の感染状況です。先週1週間の新規陽性者数は1万

4, 359人で、これは過去最多となります。日別の発生カレンダーを見ましても、赤枠で囲みました7月29日に過去最多となる2,610人の発生が確認されたところです。

このように急激な感染拡大は続いており、今後夏休み等の影響による人流の拡大やエアコン等の使用により換気が不十分となりがちな季節が続くことで、さらなる感染の拡大や長期化が懸念され、予断を許さない状況です。

感染拡大を少しでも抑制するために、市民の皆様には改めて基本的な感染対策の徹底をお願いしたいと思います。状況に応じたマスクの着用や3密の回避、小まめな手洗いとともに、エアコンの使用により換気が不十分になる夏場においては、必要な換気量の確保と空気の流れに配慮した換気が重要となります。こうした基本的な感染防止策を意識して生活をしていただきたいと思います。

これからお盆を迎えるに当たりまして、旅行や帰省を予定されている方も多いと思います。感染を広げないため、事前に検査を行い、体調を確認していただきたいと思います。

なお、埼玉県の無料検査は、無症状の方を対象に、市内では100か所以上の薬局等で実施しています。検査を受けられる場所は県のホームページで調べられるようになっていきますので、御利用いただきたいと思います。

またあわせて、埼玉県では今後お盆に向けて大宮駅前無料検査場を開設する予定と伺っております。旅行や帰省などお出かけの際は、ぜひ御活用いただきたいと思います。

また、これから夏休みを迎えるに当たりまして、さらなる接触の機会の増加が見込まれています。特に先週に入りまして、若年層はもとより、重症化リスクの高い60代以上の陽性者が増えていることから、高齢者も含め、ワクチン接種を希望される方は早めの接種をお願いします。

次に、本市の新型コロナワクチンの接種状況について説明します。

まず、8月2日時点での3回目接種の接種率はこちらです。これは、対象者が12歳以上となりますが、68.5%です。また、4回目接種の60歳以上の方の接種率は22.6%です。

なお、接種率には含んでいませんが、18歳以上59歳以下の4回目接

種対象者の接種済み数は3,923人です。

7月22日から18歳以上59歳以下の医療従事者等及び高齢者施設等の従事者がワクチンの4回目接種の対象に追加されました。新型コロナウイルスの感染が依然として拡大する中では、希望する方が早期に接種できる体制づくりが大変重要であると考えています。

そこで、モデルナ社ワクチンの集団接種会場の8月の予約枠を拡大し、8月は個別接種会場と集団接種会場を合わせて18万回以上と、希望される方が接種できるよう、十分な数の予約枠を用意しています。

ワクチン接種は、自身を守るだけでなく、家族、友人、また高齢者など大切な方を守ることもつながります。特に若い世代で接種がお済みでない方は、ぜひこの夏休み期間中の接種を御検討いただきたいと思います。

市長発表：議題2「「おくやみ窓口」を10区に設置します」

続いて、議題2「「おくやみ窓口」を10区に設置します」について説明します。

おくやみ窓口とは、身近な方が亡くなられた後、区役所において御遺族が行う主な手続を一体的に対応する窓口で、事前予約制となっています。今年6月1日から浦和区役所にて先行実施しており、このたび9月1日から10区の全ての区役所で設置することになりました。

おくやみ窓口で行う受付手続ですが、申請、届出については、世帯主変更届、相続人代表者の届出などの7種類を受付します。返還等の手続については、印鑑登録証、介護被保険者証の返還などの20種類を受付します。合わせて27業務になります。

これによって、区民課、支援課、高齢介護課、保険年金課の4課27業務に対応します。

続きまして、おくやみ窓口の設置によってどのように変わるかについて説明します。

こちらを御覧いただきたいと思います。こちらが設置前、これが設置後になります。

今までは、御遺族の方に必要な手続を各窓口で確認していただいていた。おくやみ窓口では、電話予約の際にお亡くなりになった方の情報を

事前に確認させていただくことで、予約日当日は1つの窓口で27業務のうち必要な手続をスムーズに行うことができます。

このように、おくやみ窓口で御遺族の方が行う主な業務を一体的に対応することによって、これまでにあった、必要な手続が分からない、何度も同じ説明をしなければならない状況を解消し、御負担を軽減することができます。

先行実施している浦和区での利用者からは「初めてのことばかりで何も分からなかったのが、御親切に対応していただいて、不安が少しずつ消えました」という声や、あるいは「手続をスムーズに進めることができ安心感がある。とてもよい窓口だと思います」などの好評の声をいただいています。

ご遺族の行う手続は、誰もが慣れておらず、不安を覚えるものかと思えます。そのようなときは、ぜひおくやみ窓口にお電話をいただきたいと思えます。御遺族が行う主な手続を一体的に対応させていただきます。

先行実施中の浦和区を除く9区では、8月29日より電話で予約の受付を開始しますので、ぜひ御利用いただきたいと思えます。

市長発表：議題3「埼玉大学とイノベーション創出連携に関する覚書を締結します」

続いて、議題3「埼玉大学とイノベーション創出連携に関する覚書を締結します」について説明します。

まず、埼玉大学における産官学連携の取組について説明します。

埼玉大学では、研究力強化と社会的課題を解決するための共創拠点の形成として産学官連携への方針を掲げておられます。これまでも産学官連携として、防災ビジネス研究会における防災情報システム「ソナエージ」の開発・実証実験を行うほか、本市の医療ものづくり都市構想を推進するため学術機関として参画していただくなど、連携実績があります。

そのほか、脱炭素先行地域への共同提案など、市の施策や地域の社会課題解決に向け、学術機関の知見を活かした協力をいただいております。

本市におきましても、総合振興計画の「新たな産業の創出と地域産業の振興」に向けて、産学官金連携によるイノベーション創出を重点施策に位置づけています。大学及び市の双方ともに、新たに地域・社会課題やイノ

ベーションの創出への取組強化に向けた機運が高まったことから、今回覚書を締結する運びとなりました。

今回の協定の目的は、本市の特色ある地域資源と埼玉大学の持つ知見を活用することによってイノベーションを創出し、そして社会課題の解決、また地域経済の活性化及び新産業の創出を図ることにあります。

そのために、3つの連携事項である、産学連携による共同研究、社会実装のための協働及び人材の育成について連携を強化してまいります。

連携事項ごとの取組方針について御説明します。まず、共同研究につきましては、中小企業の技術開発を支援するイノベーション技術創出支援補助金に新たに産学連携枠を設け、企業の産学連携を促進してまいります。

また、ヘルスケア関連分野の育成支援と連携しまして、スポーツシューレ構想が掲げるスポーツ産業の育成においても、協力を図ってまいります。

大学側の共同研究及び社会実装の強化に向けては、学内にイノベーション創出拠点となる地域共創研究センターの設置に向けた準備を進めるなど、取組や体制構築を進めています。

人材の育成、活用については、3D-CAD、3Dプリンター研修など高度なものづくり人材の育成を図ってまいります。このような取組を継続して実施し、地域経済の発展や新たな産業創出に貢献していくために、埼玉大学との覚書締結を地域へ広く発信してまいりたいと思います。

締結式は8月10日、10時から、場所はさいたま市役所本庁舎2階の特別会議室を予定しています。当日は、埼玉大学からも連携の狙いなどのお話をいただく予定となっています。

今回の締結を契機に、埼玉大学とはイノベーションを創出していくことを大きく期待し、本市の地域産業の付加価値の創出や新たな産業の創造につなげていくことを希望しています。

市長発表：議題4「中小企業等を対象にエネルギーコストの節減に資する設備更新に係る補助を行います」

続いて、議題4「中小企業等を対象にエネルギーコストの節減に資する設備更新に係る補助を行います」について説明します。

まず、事業の背景ですが、現在原油価格等の上昇によりエネルギーコストが高騰していることや、電力消費の実態として、オフィスでは空調と照

明が電力消費量の約72%を占めており、飲食店では空調、照明、厨房機器等で約97%を占めています。

今回の補助事業の目的は、昨今の原油価格、物価高騰への対策に加え、将来的な企業体質強化への備えとして、エネルギーコストの節減に資する設備への更新を図ることとしています。

補助の内容としては、対象者は、市内に事業所を有し、1年以上の事業継続の実績を有する中小企業者等です。また、対象設備は、更新を行うLED照明機器、高効率空調設備、また業務用冷蔵庫などの厨房機器等です。

補助概要としては、補助率は補助対象経費の3分の2以内、ただし1事業者当たり500万円の上限があります。また、予算額は1億5,000万円としています。

申請期間は、令和4年9月1日から10月14日までです。

申請方法は、郵送による受付とさせていただきます。

申請書は、8月8日から各区役所情報公開コーナーにて配布を開始し、市ホームページからもダウンロードできるようになります。

中小企業等の皆様に設備更新を御検討いただき、補助金を活用していただきたいと思っております。

私からは以上です。

議題に関する質問

○ 読売新聞 それでは、市長からの説明について、マイクを使用して質問をお願いいたします。

では、幹事社から質問させていただきます。まず、おくやみコーナーについてなんですけれども、先行的に導入した浦和区役所で、どれぐらいの相談実績があったかお伺いさせていただきます。

○ 市 長 御質問にお答えします。

浦和区役所での先行実施の状況ですが、6月1日から7月15日までの集計で、26件の受け付けを行いました。予約は行わなかったものの、利用に関する相談を47件いただきました。

また、利用者に本日の対応についてアンケートを行った結果、とても満足、やや満足と回答した合計は93.8%でした。

以上です。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。
おくやみ窓口は、窓口が分かれていたということで、様々それまでに意見とか苦情とか、そういったのもあったのでしょうか。それで検討されたのでしょうか。

○ 市長 これまでも、もちろん市民の皆様からの声もありましたし、あるいは議会からも、おくやみについて言うと手続がたくさんあって、1回では十分手続が行われなくて、手続し忘れてしまうケースがあるとか、あるいは必要な書類などが分かりづらかったりすることで、非常に手間がかかっているという声もありました。そういったものを受けて私たちとしてはワンストップで必要な手続、書類などが分かり、かついろいろな窓口に行かなくてもその手続ができる場所を設置しようということで取り組んできました。

幹事社質問：コロナ感染拡大を受けて、さいたま市でも新たな対策を検討しているか

○ 読売新聞 それでは、ほかにありますか。
それではないようですので、幹事社質問のほうに移らせていただきます。
それでは、幹事社として代表質問させていただきます。
かつてない規模での新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、一部の自治体では濃厚接触者の特定を保育所で行わないなど、新しい対策を取るようなところも出てきているようです。さいたま市のほうでも何かこうした新たな対策を検討されていらっしゃいますでしょうか。

○ 市長 それでは、幹事社からの御質問にお答えします。
まず、さいたま市では第6波における感染者の急増に伴いまして、埼玉県で1月以降、既に保健所の施設調査等の対象を重症化リスクの高い方が利用する高齢者施設、また障害者施設、医療機関に重点化する方針を定めていますので、本市でもこの方針に沿った対応をしています。

また保育所、幼稚園、小中学校等において陽性者が確定された場合には、国の濃厚接触者の基準等に基づきまして、各園、学校等において自ら濃厚接触者等の調査を行い、状況に応じて臨時休校、また休園、また登園自粛等を実施する体制としています。

保育園等における濃厚接触者の特定、取扱いにつきましては、本市のみならず近隣市等にも影響が出ることから、今後も県と歩調を合わせ対応し

ていきます。

今般の感染拡大に対し、長期化する感染の急拡大に対応するために、第6波のときに一部の保健センターで準用していた新型インフルエンザ等対策業務継続計画、BCPにつきまして、7月22日以降、10区全ての保健センターで準用し、家庭訪問における比較的緊急性の低い事案や集団教室など、一部業務を順次延期、休止することによりまして、保健センターの保健師がこれまで以上に患者調査や健康観察等の感染症対策業務に従事する対応を始めています。

なお、一部事業の延期、休止に当たりましては教室参加を予定していた方への資料送付、またホームページへの動画掲載など、影響を最小限にとどめる対応を行っているところです。

さらに、保健所の人員体制強化として、全庁動員職員を7月27日に10人から30人に増員するなど事務職員の体制も強化し、現在感染症対策業務に従事する人員は244人となっています。

引き続き感染状況を注視しながら、市内の感染者の急増に対応できるように保健所を継続的、また安定的に運営するための体制強化をしっかりと行ってまいります。

以上です。

- 読売新聞 代表質問の説明に関して質問がある方は質問してください。

それでは、そのほかに質問がある方は質問してください。

その他：旧統一教会と政治家との関係について

- 共同通信 共同通信と申します。よろしくお願ひいたします。

旧統一教会と政治家との関係が今非常に問題になっておりまして、この件に関して2点お伺いしたいんですけれども、1点目は、市長ご自身はその旧統一教会の関連団体から支援を受けたりとか、イベントに出席したりなど、関係があったことはありますでしょうかということが1点目。

2点目は、その宗教団体と政治家との関係の在り方についてどのような考えをお持ちか、お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

- 市長 まず、私自身の支援、あるいは会合への出席については、いずれも支援を受けたことも出席したこともありません。

それから、2点目の政治家と宗教団体との関係は、憲法などにも政治と宗教との関わりについてということで、一つは信教の自由、それからもう一つは国や地方自治体が特定の宗教に特定の利益をもたらすような行動をしないという趣旨の規定がなされていますので、基本はそれをしっかり遵守をしていくことになると思っています。

その他：救急搬送困難事例について

- 毎日新聞 消防庁のほうから、救急搬送困難事例に関する状況調査のほうが送付されていると思います。その中に、さいたま市消防局のほうのデータが入っておりまして、それによると搬送困難事案が増えているということですが、どのような事案で何件ぐらい、お電話して、結局搬送、病院到着までに最もかかった時間はどのぐらいなのか、中身教えていただきたいんですが。
- 市長 それは、担当からお答えさせていただきます。
- 事務局 ただいまの御質問で、搬送困難症例についてですが、7月25日からの第4週が233件となっています。
その件数につきましては、第6波の214件を上回る数字で、その前の週の第3週までは割と搬送困難症例そのものは第6波に比べると、少ないとは言えないですが、第6波よりは落ち着いていた状況です。ただ、第4週に一気に増えまして、ただ出場件数そのものも増えていますので、出場件数に占める搬送困難症例の割合、これが11.6%になります。第6波のときに、最高が15%ぐらいという週もありましたので、それに比べると、まだ何とかという状況です。
どういう事案が搬送困難になりやすいのかという御質問なのですが、全てを見ているわけではないですが、現場からの声を聞いていますと、やはりこのコロナで発熱の症例で、御高齢であったり、高齢者施設での発熱であって、病院に行って帰ってこられる状況であれば割とすんなり病院も決まりますが、これはどう考えても入院でしょうとなると、なかなか受入先が見つからないというのが現状だと現場から聞いています。
病院までの（搬送にかかる）時間に関しましては、これまで（3時間ぐらい）かかった事案があったと思うのですが、詳細な数字は今手元にないので、もし必要であれば、後ほどお答えしたいと思います。あと何でしたか。

- 毎日新聞 何回ぐらい電話するだとか。
- 事務局 それもざっと見ていると、大体10回、20回。それは全てではないですが、どうしてもベッド満床という理由が多かったりで、コロナの病床確保ということで、フェーズが7月25日から上がったりと、そういう影響もあるのかなと思うのですが、医療機関の状況は私どものほうでは詳細までは把握していませんので、ちょっとつかめないところはあります。
- 毎日新聞 これはコロナ疑いの方の搬送が難しいと。
- 事務局 コロナ疑い、発熱があるから疑いになってしまう部分もある。あと、その中には発熱プラス転んで足の骨を折ったとか、そうなりますと両方の、内科と整形外科が必要だったり、以前第6波のときか何か新聞で読んだのでは、整形外科だとどうしても入院の期間が長引いて、リハビリが必要だったりとか、そうするとベッドが埋まってしまうので、なかなか受けづらいう記事を読んだことがあって、そういうのが原因なのかなと思っていますが、もともと高齢者の方の搬送が多いので、搬送困難になっているのは御高齢者の方の事案が多いと理解しています。
- 毎日新聞 ほかのところでは受診できないというので、どうしたらいいか分からなくて、救急要請してしまう。でも、軽症という。そういう搬送事案も結構あると聞いたんですが。
- 事務局 現場に聞いたり、指令センター、119番を受けるところに聞くと、発熱があつて、診察を受けたいけれども、病院に電話しても診てもらえないから、病院に連れていってくれというのも結構増えているとは聞いていますし、さいたま市消防局というより、多分全国的になんでしょうけど、軽症事案は大体いつも50%ちょっとですが、この7月はもう60%、多いときで68%が軽症になっているので、その増えた10%ちょっとというのは、そういう事案が多いのかなと。あと、熱中症も今この暑さですので、6月は昨年の出場件数に比べますと、6倍の出場件数があったので、そういったことも関係しているのかなと捉えています。
- 毎日新聞 本当に急を要する救急事案には、スムーズという、どういふのをスムーズと言うのかはあるとは思いますが、例年どおりそれなりに搬送は、本当に必要なものに関しては今のところできていると。
- 事務局 重症事案が今1割にも満たない状況ですので、そういう救命センターに

運ぶような事案に関しましては、第1選定で運んでいるような状況ですので、こちらに関しては今のところ大丈夫です。

- 毎日新聞 ありがとうございます。
それを受けて市長に、軽症事案がこれだけ、60%から68%ぐらいになっているということについて、市民に対して何か呼びかけ等ありましたらお願いいたします。
- 市長 やはり今新型コロナウイルスの感染症については、オミクロン株の変異株ということで、どちらかという重症化しにくい、そういった症状が大半を占めています。現在軽症の方など、119番で救急搬送をお願いする場合には、そういったそれぞれの状況を十分に把握した上で、その必要性などについて考慮していただいて御利用いただければありがたいと思っています。
- 毎日新聞 何かその適正利用の呼びかけなど、何か迷ったときに相談するようなどころとかあったりするのでしょうか。
- 事務局 迷ったときには、国の事業の一環として、各都道府県で相談窓口として#7119、お子様がいると#8000、そういうものはありまして、119番に病院の問い合わせがあった場合でも、#7119に相談してみてくださいと広報しています。

その他：市立病院の医療提供体制について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
県内のほかの病院では医療従事者の方が濃厚接触とかで大変厳しい状況もあるところですが、市立病院については現在どういう状況になっているのでしょうか。
- 事務局 市立病院につきましては、医師、看護師、コメディカル、それから事務、それで1,000人程度いますが、それに対しまして就業制限等がかかっているのが大体50名程度という状況です。
- 埼玉新聞 50人程度というと、支障はないという評価でよろしいんですか。
- 事務局 実際は現場のほうでコロナの対応とかを、大分手を取られる状況ですが、そこはやりくりしながら、何とかしている状況です。

その他：旧統一教会について

- 埼玉新聞 続けて、旧統一教会の関係ですけれども、先日さいたま市議の方が雑誌

とか新聞購入ということですが、この雑誌、新聞購入についても清水さんはないということによろしいんですか。

○ 市長 ごさいません。

その他：市立病院の医療提供体制について

○ 読売新聞 関連してちょっとよろしいでしょうか。先ほど市立病院で、今50人程度で支障はないということで、何とかやりくりをしながら回しているということなんですけれども、具体的にどういうふうに対応しているか教えてくださいいただけますか。

○ 事務局 実際にスタッフ、特に看護師とかが就業制限等かかっていますので、それに対して、例えば手術の枠を調整したりだとか、外来診療だとか、その辺りの調整をしたりなど、できるだけ限られた人員で対応できるような状況で回している状況です。

○ 読売新聞 それに関連してなんですけれども、今おっしゃったように手術の枠調整、外来診療調整ということなんですけれども、例えば手術枠を少し減らすであるとか、外来診療の受付を少し減らすだとか、そういったような対応をされているということによろしいんでしょうか。

○ 事務局 はい、そのとおりです。

○ 読売新聞 ありがとうございます。

では、各社さん、何かありますか。

○ 毎日新聞 毎日新聞です。

先ほどの市立病院の関連なんですけど、手術や外来診療を一部制限ということ、じゃ今一般医療に支障が出ているという認識なんでしょうか。

○ 事務局 一般医療のほうはそれほど影響はないですが、かなり厳しい状況です。

○ 読売新聞 どうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は9月1日木曜日、午後2時からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時07分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。